

# 令和元年度 病害虫発生予察情報

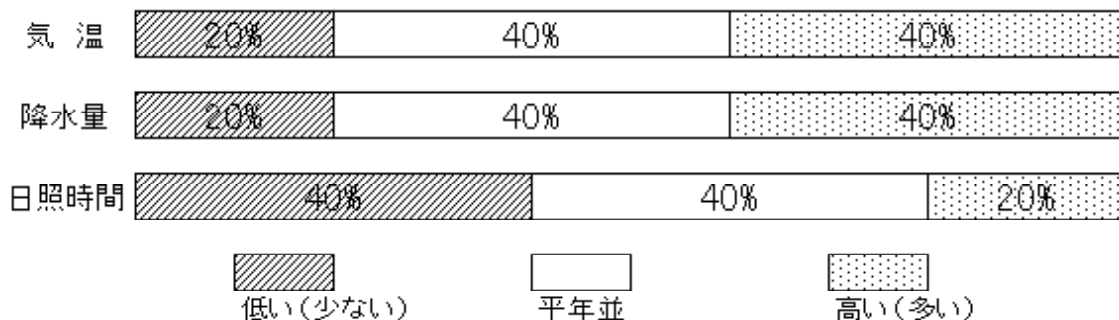
## 発生予報第7号（9月）

令和元年9月5日  
島 根 県

### 予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量		
普通作物	イネ	穂いもち	少ない		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		白葉枯病	平年並		
		もみ枯細菌病	やや多い		
		ツマグロヨコバイ	やや少ない		
		トビイロウンカ	多い		
		斑点米カメムシ類	やや多い		
		果樹	ダイズ ナシ	ハスモンヨトウ	やや少ない～平年並
				黒斑病	やや少ない～平年並
				シンクイムシ類	平年並
野菜	カキ アブラナ科野菜	ハダニ類	平年並		
		カメムシ類	平年並～やや多い		
		うどんこ病	少ない		
		カキミガ	平年並		
		カメムシ類	平年並～やや多い		
		アブラムシ類	平年並		
		コナガ	少ない		
		アオムシ	やや少ない～平年並		
		ハスモンヨトウ	やや少ない～平年並		

中国地方1か月予報(8月31日～9月30日・広島地方气象台8月29日発表)  
<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



#### A. 普通作物

##### 1) イネ

##### (1) 穂いもち

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

少ない

予報の根拠

① 穂いもちの発生は少ない。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特にやや助長的である。

##### (2) 紋枯病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量 平年並～やや多い  
予報の根拠  
①発病程度の高いほ場もあるが、全般の発生量は平年並みである。  
②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(3) 白葉枯病

予報内容  
発生地方 常習発生地  
発生量 平年並  
予報の根拠  
①一部常発生地で発病を認めている。  
②向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(4) もみ枯細菌病

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや多い  
予報の根拠  
①「きぬむすめ」などで発生の多いほ場がある。  
②向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(5) ツマグロヨコバイ

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない  
予報の根拠  
①8月28日～30日の巡回調査では、発生ほ場率36.6%（平年65.3%）、捕獲虫数9.4頭/50株（平年34.3頭）で発生量は平年に比べてやや少ない。  
②8月第5半旬までの予察灯への総誘殺数は147頭（平年315.2頭）と平年並みである。  
③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) トビイロウンカ（注意報第1号参照）

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 多い  
予報の根拠  
①8月28日～30日の巡回調査では、発生ほ場率56.1%（平年29.1%）、捕獲虫数16.5頭/50株（平年2.6頭）で平年に比べて多い。  
②一部ほ場で本種による被害（坪枯れ）を確認した。  
③8月下旬に予察灯（出雲市、益田市）において長翅成虫の誘殺を確認した。  
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(7) 斑点米カメムシ類

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや多い  
予報の根拠  
①8月28日～30日の巡回調査では、発生ほ場率70.6%（平年42.2%）捕獲虫数3.2頭/20回振り（平年2.2頭）で全般の発生量は平年に比べてやや多い。一部ほ場でクモヘリカメムシの密度が高い。  
②斑点米カメムシ類の優占種はアカスジカスミカメとクモヘリカメムシである。  
③8月第5半旬までの予察灯でのアカスジカスミカメの誘殺数は144頭（平年207.5頭）で平年に比べてやや少ない。  
④向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

2) ダイズ

(1) ハスモンヨトウ

予報内容  
発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並  
予報の根拠  
①巡回調査での本種幼虫による白変か所数は0.1か所/a（平年0.4か所）、発生ほ場率は10.0%（平年22.4%）と平年に比べやや少ない。  
②8月第5半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で336頭（平年404.7頭）、県西部で247頭（平年543.9頭）と平年

に比べてやや少ない。  
 ③向こう一か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

## B. 果樹

### 1) ナシ

#### (1) 黒斑病

予報内容  
 発生地方 ナシ（二十世紀）栽培地帯  
 発生量 やや少ない～平常並

#### 予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は9.7%（平常14.9%）であり、平常に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや助長的である。

#### (2) シンクイムシ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生時期 平常並  
 発生量 平常並

#### 予報の根拠

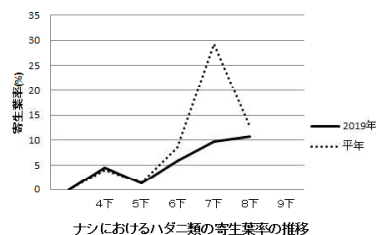
- ① 予察ほ場（安来市・出雲市）のフェロモントラップでのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期、誘殺数ともに平常並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (3) ハダニ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生量 平常並

#### 予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では、寄生葉率は10.8%（平常12.7%）で平常並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。



#### (4) カメムシ類

予報内容  
 発生地方 ナシ栽培地帯  
 発生量 平常並～やや多い

#### 予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメムシ類の殺数は1,116頭（平常1,340.5頭）と平常並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

### 2) カキ

#### (1) うどんこ病

予報内容  
 発生地方 カキ栽培地帯  
 発生量 少ない

#### 予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発病葉率は0.9%（平常11.6%）であり、平常に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

#### (2) カキミガ（第2世代）

予報内容  
 発生地方 カキ栽培地帯  
 発生量 平常並

#### 予報の根拠

- ① 第1世代幼虫による芽および果実の被害は平常並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) カメモシ類

予報内容

発生地方 カキ栽培地帯  
発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

- ① 予察ほ場（出雲市）の8月第1半旬から第6半旬までの予察灯でのカメモシ類の誘殺数は1,116頭（平年1,340.5頭）と平年並みである。
- ② 向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

C. 野菜

1) アブラナ科野菜

(1) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発生ほ場率は63.6%（平年66.3%）、寄生株率は5.5%（平年15.7%）であり、平年並みである。
- ② 8月第5半旬までの黄色水盤への有翅虫の累積飛来量は平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(2) コナガ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発生ほ場率は0%（平年16.0%）、寄生株率は0%（平年1.9%）で平年に比べて少ない。
- ② 向こう一か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(3) アオムシ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査では発生ほ場率は27.3%（平年29.4%）、寄生株率は1.4%（平年5.4%）で平年に比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

(4) ハスモンヨトウ

予報内容

発生地方 県内全域  
発生量 やや少ない～平年並

予報の根拠

- ① 8月下旬の巡回調査での発生ほ場率は9.1%（平年11.1%）、寄生株率は0.9%（平年1.3%）と平年に比べてやや少ない。
- ② 8月第5半旬までのフェロモントラップによるハスモンヨトウ雄成虫の累積誘殺数は、県東部で336頭（平年404.7頭）、県西部で247頭（平年543.9頭）と平年に比べてやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は、本種の発生にやや助長的である。

**島根県病害虫防除所**

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫科）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>